

平成 30 年度第 1 回佐倉市行政評価懇話会 要録

日時	平成 30 年 8 月 6 日 (月) ①11 時 00 分～11 時 14 分 ②12 時 45 分～13 時 50 分	場所	①佐倉市役所 1 号館 3 階会議室 ②佐蘭花 (ふるさと広場)
出席者	懇話会委員：伊藤委員、大野委員 (副委員長)、川上委員、笹井委員、高橋委員、藤本委員、武藤委員 (委員長) (五十音順)		
	事務局	岩井企画政策部長、和田企画政策課長、藤崎副主幹、齊藤主査、東城主査補	
	事業担当課	(産業振興課) 鈴木課長、荻野主査	
	その他	傍聴 0 名	
内 容			
<p>◆市長挨拶</p> <p>佐倉市行政評価懇話会委員の委嘱をお受けいただき感謝申し上げます。</p> <p>総合戦略の検証機関の委員として、それぞれ専門家としての視点、市民の立場としての視点から、総合戦略に掲げた基本目標及び具体的施策の検証をお願いしたい。</p> <p>平成 32 年度からは第 5 次佐倉市総合計画がスタートすることから、新たな施策の提案なども頂きたい。</p> <p style="text-align: center;">〔市長退席〕</p> <p>◆議事</p> <p>(1) 委員長及び副委員長の選任</p> <p>(事務局 (和田企画政策課長)) 審議会等の会議は、佐倉市情報公開条例第 28 条により原則公開となっている。当懇話会の会議についても原則公開としてよろしいか。</p> <p style="text-align: center;">〔「異議なし」との発言あり〕</p> <p>(事務局 (和田企画政策課長)) 会議録は、会議終了後事務局で作成し、各委員に確認の上確定し、速やかに公表したい。これまで同様、要録としてよろしいか。</p> <p>(委員) 佐倉市で公開されている審議会の会議録は、委員の氏名を記名している会議録と、無記名の会議録がある。行政評価懇話会ではどうするのか。</p> <p>(事務局 (齊藤主査)) 委員長については「委員長」と記載。その他の委員については、自由な発言ができるよう、全て「委員」と標記することを考えている。</p> <p>(事務局 (和田企画政策課長)) そのようなかたちで、会議録を作成してよろしいか。</p> <p style="text-align: center;">〔「異議なし」との発言あり〕</p> <p>(事務局 (和田企画政策課長)) 会議の議長は、懇話会要綱により委員長が議長を務めることとなっているが、委員長が選任されるまでは企画政策課長が務めさせていただく。</p> <p>議事の①、委員長及び副委員長の選任について。佐倉市行政評価懇話会設置要綱第 4 条に基づき、委員長及び副委員長は、会員の互選となっている。互選をお願いしたい。</p> <p>(委員) 委員長は、法政大学大学院の武藤先生をお願いしたい。これまでの 4 期に渡る経験と公共政策の専門家としての経験も豊富なので申し分ないと思う。副委員長は、元佐倉市職員の大野委員をお願いしたい。大野委員はこれまで佐倉市の各分野を担当し、市の業務に精通している。</p> <p>(事務局 (和田企画政策課長)) 委員長に武藤委員、副委員長に大野委員が推薦されたがいかがか。</p>			

〔「お願いします」との発言あり〕

（事務局（和田企画政策課長）委員長に武藤委員、副委員長に大野委員が選任された。正・副委員長席に移動をお願いします。

〔正・副委員長、正・副委員長席へ移動〕

（委員長）これまで以上に、行政評価の役割を果たしていきたい。

（副委員長）委員長を補佐していく。

（2）佐倉市行政評価の概要について

（委員長）次第の②、佐倉市の行政評価の概要について、事務局の説明を求める。

（事務局（齊藤主査））資料1「行政評価懇話会について」を説明。佐倉市では平成18年度より、内部評価として行政評価委員会、外部評価として行政評価懇話会を設置し行政評価を進めている。平成28・29年度は、第4次佐倉市総合計画・後期基本計画の重点施策と位置付けた佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策の進捗状況について意見提案を行った。今期懇話会でも、佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証機関としての役割を担っていただき、進捗状況などについての評価をお願いしたい。

資料2「総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略との関係性について」を説明。今回行政評価懇話会において評価していただく佐倉市総合戦略は、佐倉市人口ビジョンに示した2040年に16万人、2060年に15万人の人口維持の目標を達成するための計画であり、後期基本計画の重点施策として位置付けている。総合戦略では4つの基本目標と、それを達成するための29の具体的な施策を定めている。基本目標、具体的な施策ごとに数値目標（KPI）を設定し、毎年、実施した施策・事業の効果を検証することとなっている。

資料3「部局との意見交換について」を説明。これまで行政評価懇話会では、事業及び施策の評価を中心に実施してきた。5期の28・29年度は、まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価を実施した。

資料4「佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標及びKPI動向一覧」を説明。今期、評価をお願いする総合戦略の指標を一覧にしたものであり、総合戦略に掲げた4つの基本目標と、基本目標に定めた7つの指標の平成29年度の達成率を記載している。平成29年度は、基本目標の4つの指標が初期値を下回っている。また、合計特殊出生率も初期値を下回る見込み。具体的施策の指標は、71指標中、8割弱の指標が初期値を上回っている。今懇話会では、達成状況の悪い指標についての評価をお願いしたい。また、基本目標に掲げた指標の評価もお願いしたい。

資料5「平成29年度佐倉市行政評価懇話会に対する回答」を説明。平成29年度の行政評価懇話会からの意見書に対する担当課からの回答を取りまとめたもの。今後の評価の参考にしていただきたい。

（委員長）ただ今の説明について質問があればお願いしたい。

なければ、人口ビジョンについて伺う。日本全体として見るともっと減少すると思う。国と比較して人口ビジョンの減り具合はどうか。

（事務局（和田企画政策課長））人口ビジョンを策定する際、国から人口減少を食い止めるための戦略として作成することとされており、佐倉市の人口ビジョンでは、市民が希望する合計特殊出生率2.38をクリアできるという非常に高い目標を設定した。第5次総合計画の基礎調査で推計した人口見込みでは、社会保障人口問題研究所が示した人口推計よりは高い推計となっている。

（委員）首都圏の人口は、東京一極集中があって維持できているとも言える。10年単位で変わってくるので人口指標というのは非常に難しい。佐倉は、そこに住んでいる人口である夜間人口が昼間人口をはるかに上回っている。佐倉周辺の自治体では昼間人口の方が多いいのは成田市ぐらい。交流人口でまちの活性化を図っていくという視点が人口の裏に見据えられてないといけないのではないかな。ある年代ごとの人口の動きも推計の中で見ていくべき。子育て支援策をやっても、産む年齢層の人が少なければその

年齢層の出生率が上がっても増えてはこない。合計特殊出生数や完結出生時数などの分析が重要。その辺を見ながら全体人口の話をするべき。

(事務局(齊藤主査)) 基本目標の KPI の一つに合計特殊出生率があり、好転するための施策について、ご意見等を頂きたい。

(委員長) 2040 構想研究会が総務省で行われた。30 次、31 次と地方制度調査会の委員をやっているが、2040 年に向けてどういうことをやっていくかということ議論している。労働の観点から本格的な移民政策が必要との議論もあり、政策によって人口が変動する。また AI で人の仕事が奪われる、だからベーシックインカムなんだとの議論もあれば、AI が人の仕事をやってくれると考えると人口減少は怖くないとの議論もある。2040 年に向けた日本社会の継続な発展と成熟が大きな課題。

ほかに質問はあるか。

[「ないです」との発言あり]

(委員長) 以上で午前中の議事は終了。午後は会場をふるさと広場管理棟「佐蘭花」に移し、地方創生拠点整備交付金を活用した事業の評価を行う。

以降の進行は事務局に返す。

(事務局(和田企画政策課長)) 事務局から連絡事項がある。

(事務局(齊藤主査)) 第2回、第3回の開催日程の協議をお願いしたい。

[協議により、第2回目は10月24日の午後、第3回目は11月7日の午後に決定]

(11時14分終了)

(3) 地方創生拠点整備交付金を活用した事業の効果検証

[佐蘭花の現地視察・事業説明]

(13時10分再開)

(委員長) 午前中に引き続き会議を開く。先ほど説明のあった観光拠点施設「佐蘭花」の機能強化による観光産業等活性化プロジェクトが、佐倉市総合戦略の基本目標の実現を目指す取組みとして、有効であるかどうかの評価を行う。

質問等があればお願いしたい。

(委員長) 売上が1.4倍に伸びたとのことだが、具体的な内容は。

(産業振興課長) チューリップフェスタの売上げが大きい。オランダ屋とタイアップしたチューリップサブレもかなりの量が売れた。地元牧場のソフトクリームも良く売れる。ひと月200万円~300万円の売上となっている。

(委員長) 黒字なのか。

(産業振興課長) 観光協会の独自事業として実施しており、人件費、光熱水費を除いた分が観光協会の収益となる。レンタサイクルも観光協会の独自事業であり、収入に貢献している。2人乗りのタンDEM自転車を導入した。県内初の公道を走れるタンDEM自転車であり、好調。

(委員長) マルシェかしまとは競合するのか、相互作用するのか。

(産業振興課長) 相乗効果が出ている。かしまもチューリップ、ひまわりの時は売上が上がっている。サンルームを設置して売上げは好調。商品での相互住み分けは出来ていない。農産物の商品は一部競合している。

(委員) 野菜の値段は生産者がつけるのか。

(産業振興課長) 農家からの仕入れ価格により決定。

(委員) 新鮮で安い野菜が手に入るイメージがあるが、結構高いと感じる商品もある。スーパーとの差別化が伝わらないと値段が高い商品は買わない。

(事務局 (和田企画政策課長)) 売り方の工夫で消費者は買うようになるのでは。

(委員) 商品の PR が少し足りないと感じた。

(委員) 産地物の強みは新鮮さにある。一時は無農薬ということで売れたが、今はそれが当たり前になってきているので難しい。

(委員長) ほかに何かあるか。

(委員) 屋形船を導入した効果は。

(産業振興課長) 国の交付金を活用し 11 人乗りの船を 2 艘購入した。サンセットヒルズ棧橋までの渡し運航とイベント時の乗り合い運航と貸し切り運行の 3 パターン。イベント時の乗り合いは運賃が一人 1 千円で収益が出ている。渡し運航の利用者は少ないが、人の流れを新しく作ることが国の交付金を活用する条件。今後回遊性を高めていくための仕組みを考えていく。拠点整備交付金のソフト事業として、船に持ち込める折り畳み自転車を 10 台購入した。船で行き、自転車で帰って来られる取組みを進めていく。千葉銀行からは電気自転車を 20 台寄付していただいた。佐倉は坂道が多く、電動自転車は人気ある。

(委員) 冬場の来場者が少ないと思われる。対策は考えているか。

(産業振興課長) 冬場の集客は落ちる。補助金を活用しライトアップ用の照明を購入した。今後風車のライトアップや、イルミネーションなどに取り組んでいきたい。冬場は写真を撮る方が多い。観光協会と連携を図り、写真を撮る人を対象に朝夕の出船を検討している。

春先は隣の水田にチューリップを植えているが、その土地で恒常的に花を植えられれば、正面の場所をイベントスペースとして使える。

(委員) 隣の水田は農業的な利用以外には使えないので、難しい。草ぶえの丘との連携も一つの活用方法なのでは。

花はイベント開催期間が長い。

(産業振興課長) 花の集客性は高い。海外からの来場者が多い。少しでも経済の活性化になればと考え拠点整備をした。入場料を取れず、収益は駐車場料金のみ。

(委員) 各地の花のイベントはほとんど有料。佐倉は小学生が球根を植えており、教育的な側面もある。

(委員長) 佐蘭花は、総合戦略の目標達成に有効な施設であるとの結論が出せるかが重要。KPI の設定はどうなっているのか。

(事務局 (齊藤主査)) 30 年度からどの程度増えるかということで KPI を設定している。30 年度は、114 千人の来場者の増、100 万円の売上増、1 名の新たな雇用を KPI に設定している。

(委員長) 今年度中に 1 名雇用するのか。

(産業振興課長) パートは増やしているが、正規職員を採用するまでには至っていない。

(委員) 佐蘭花は佐倉の観光拠点であるのは間違いない。

(委員) 佐蘭花の売上を伸ばすことと、来場者を増やすことが目的。さらに伸ばすためにはアクセスが重要。景観を楽しみながら来ることができる、JR 駅前から船で来ることができるなどの取組があれば来場者は増えると思われる。

(産業振興課長) 印旛沼流域の市町村からなる印旛沼流域かわまちづくり計画では、船を活用し流域の回遊性を高める取組みがある。JR 佐倉駅北口の高崎川南公園の傍に船を着けることができる場所がある。そこから船を出し、歴史民俗博物館下の御三階駐車場付近に停泊し、ふるさと広場まで来る。さらに八千代市の道の駅、その先の図書館までを船で結ぶ計画がある。八千代市でも実現に向けて進めている。JR 佐倉駅までのルートに関しては川底が浅く川の浚渫が必要であることから、毎年県に要望を出している。

(委員) 交流人口を考えないと街の活性化は難しい。佐倉に移住してもらうことは簡単なことではない。

(産業振興課長) 市の単独経費で、多くの来場者が休憩できる場所としてステージにひさしを設置し

た。好評である。併せて駐車場も整備するので、より多くの観光客が見込まれる。

(委員) 印旛沼の環境を活用したスポーツイベントは考えているか。

(産業振興課長) 鹿島川は川幅が広く、2010の国民体育大会ではカヌー会場になった。県が整備し、両側は階段護岸になっており、観客が大会を見られるようになってきている。佐倉はカヌーのチャンピオンを多く輩出しており、全国大会の常連校となっている佐倉高校カヌー部の練習場所にもなっている。日本カヌー連盟からは大規模な大会、世界大会を開きたいとの話がある。また、水辺のスポーツは見るのも楽しく、体験できれば来場者が増えると思われることから、着実に進めていきたい。

(委員長) 30年度は目標を達成できる見込みか。

(産業振興課長) 売り上げは達成する見込みだが、来場者は天候による。

(委員長) 有効な施設であるという結論で良いか。

〔「はい」との発言あり〕

(委員長) 佐蘭花は有効な施設との結論とする。

新たな提案などについて意見があればお願いしたい。先ほど、JR佐倉駅からここまで来られるようにとの提案があった。

(産業振興課長) 今後の取り組み予定として、構想段階だがJR東日本ではB.B.BASE (BOSO BICYCLE BASE: 房総バイシクルベース) という自転車&サイクリスト専用のサイクルトレインを4月から始めている。両国駅を出発して、電車に自転車を乗せていくことができる。勝浦、館山、佐原、銚子の4か所。佐原へは佐倉駅を通過して行くので、佐倉に停めることはできないか考えている。2千人ものサイクリストを都内から運ぶので是非実現したい。JR佐倉駅からふるさと広場までのルートを結ぶ必要があり、サイクリングルートの設定を県と調整しており、砂利道となっている箇所舗装について要望している。

(委員長) ルートは。

(委員) 川沿いを走り、歴史民俗博物館に寄っていただけるコースを新たな佐倉のサイクルツーリズムとして検討している。議会への説明も行っている。

(委員長) タンデム自転車の利用状況は。

(産業振興課長) 乗る前に講習を受ける必要がある。大人2人乗りであり、休みの日の利用は多いが、平日の稼働は低い。今後は更なる周知に努める。新聞社が取り上げたことで問い合わせは多い。

(委員長) 冬の時期の利用についての意見もあったが。

(産業振興課長) 年間を通じて人に来てもらうためには、品ぞろえの充実やここでしか食べられないものといったものが必要と考える。都市公園法上の建物制約があり、面積はこれ以上増やせない。マルシェかしまも今後の構想はあるが、六次産業化法ⁱⁱ上の制約がある。何とかクリアーして、農家レストランなどが整備できればイベントのない時期でも来場者の増が期待できる。

(委員) 船橋アンデルセン公園は農業公園なので、アイデアがあればなんでもできてしまうようだ。ふるさと広場は都市公園なので、面積の2%しか建物を建てられない。チューリップを上から見られると良いのだが難しい。

(産業振興課長) コンテナを設置し、上からチューリップの写真が撮れるようにしている。

(委員) 小さい子供が遊べる場所があると良い。芝生や遊具があれば、子供を連れて遊びに来やすくなる。花だけでは子供たちはすぐに飽きてしまう。

(産業振興課長) 以前、チューリップフェスタの際、エアートランポリンを設置したら好評でリピーターがあった。

(委員) 草ぶえの丘と連携が図ればよいのだが。

(産業振興課長) ふるさと広場の整備を進めると共に、草ぶえの丘やサンセットヒルズと連携を図れるよう人の流れをつくることも重要と考える。

(委員長) 出た意見を付し、懇話会の評価とする。

以上で本日本日予定していた議事は終了とする。他に意見はあるか。

[発言なし]

(委員長) 以上で、第1回行政評価懇話会を終了する。

(13時50分終了)

i KPI:Key Performance Indicators (重要業績評価指標) の略。目標を達成するための取組の進捗状況を定量的に測定するための指標。

ii 6次産業化法:地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律の略。